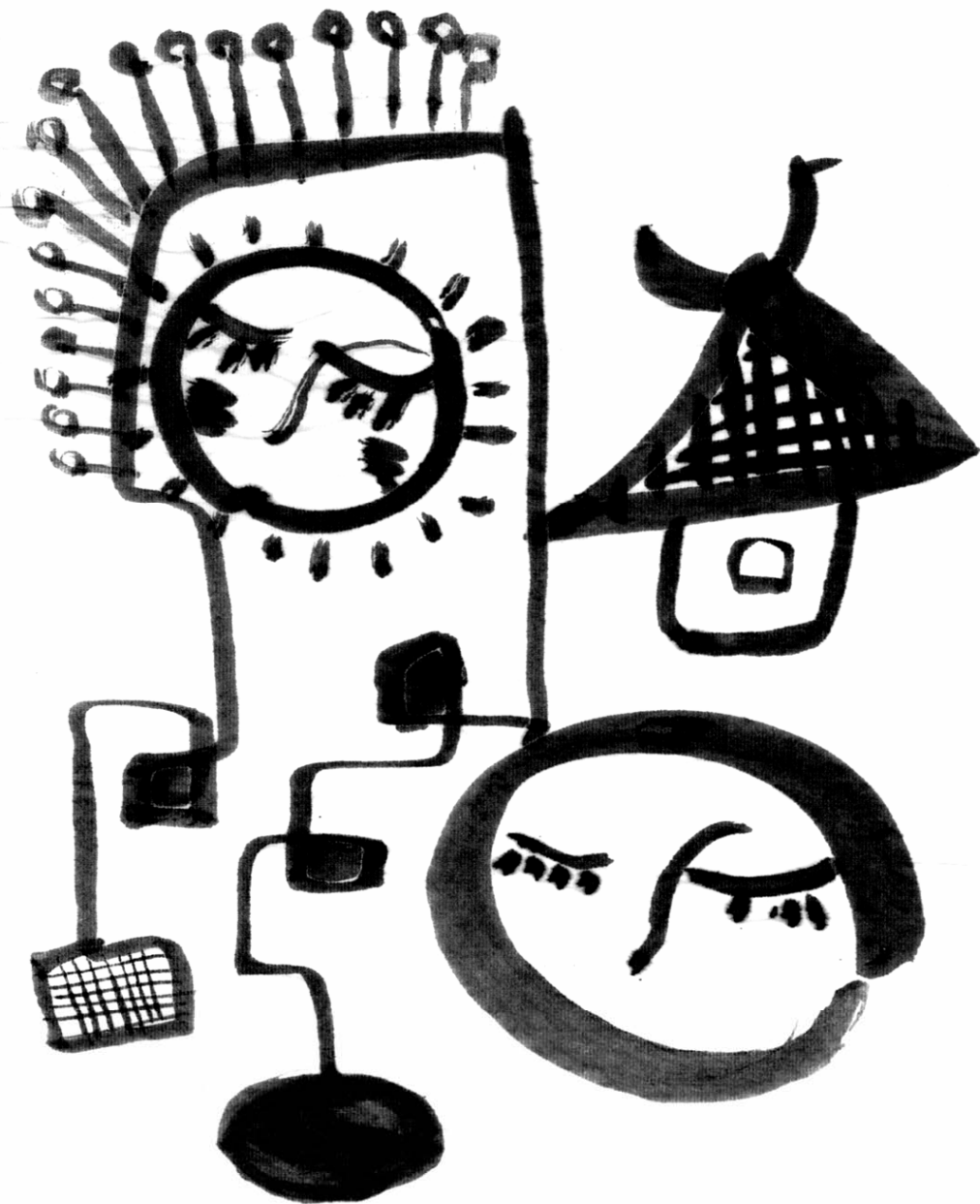


詩集

ガラスペンのため息



絵と詩

おじやうりか

前書き

久しぶりに詩でも

書目かぶかと

運いあいクいニいクい川いボいを
取リ

いたして、何らかを

~~書目~~かむとすの

2010

5月

20日

コニセフ。キムアにか、

ハハハハにか、

そわとも、無意味な

まま、記憶に留まる
のか？

絵を描くところから
始めよう

Dr. Martin

の

目

こ

く

く

く

く

目

目

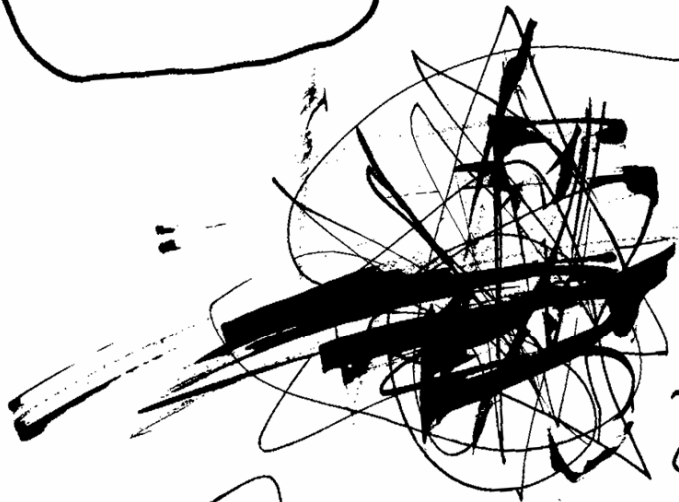
目

目

目

目

目



目

田カが前を通る。あーと

した田カで

電話とささか



猫ニ通ニ技ナ

あーと
あーと
あーと

東女
おのがこゝろにまよひあはるるが

まよ、ギヤウリーメ、~~東女~~ ~~おの~~ ~~まよ~~ ~~あは~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~

して、いこも仕方がな

取、~~仕~~ ~~方~~ ~~な~~ ~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
絵が、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~

このかあめ、~~東女~~ ~~おの~~ ~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
人で、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
い、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
決、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
こ、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~
あ、~~ま~~ ~~よ~~ ~~あ~~ ~~は~~ ~~る~~ ~~る~~ ~~が~~



目
の
中
に
星
が
あ
っ
た
と
し

た
っ
て

私
の
心
は

あ
ま
り
い

R

久しく書目にてながたか

詩といふのは、
詩といふのは、
詩といふのは、



る。どのど
る。どのど
る。どのど

小冊の
小冊の
小冊の

文「家」と
文「家」と
文「家」と

101の紙に
101の紙に
101の紙に

詩通
詩通
詩通

唱
外から申さうかがい
ををかぼったかか
か

井
招きあそびのい
い

入ってくるが
あそび

来るあそび
あそび

来るあそび
あそび

アキ 4 イチクニ 21 55 21 田 52

魚の目

みる。 11 ナナナナナナナナナナ

その魚を田には魚を田に 11 田 21 田 11

アキ 11 の 田 11 が 11 く 11 11

その次はそれでもた

たのいと田ええくる。

めがねの女が座る。

「私にも挿けよう

か。」「女の真白が

迫り来る。私には字

は書けぬのよと。
たがねるのよあつた。

通ってくる。

と
なり
絵
会
を
描
け
と

紙
は
私
の
ス
キ
ン
ク

内
豆
ま
の
袋
の
大
き
さ

と
下
が
届
い
て
い
る。

田かが田直るてゆく

「使つて下さるよ。」

「きつて要りませうから」

一枚150円もあるその大井な

白の紙は何十枚も田直キまり

「はい、私はいさしこそあを
一筆十分にくるものであつた。

小会とは何ぞや。詩とは何ぞや

俳句とは。どの道であつても

目指すべき場所ほたいて

変わらぬ。私にとつては、そう思

へて、またため自じを

つくのである。

日常のドキュメント

千ヨ
「」
キのマスターが

ビールと注いで飲む。

金に自由の雨と葉を
そめ冷たいグラスを

私は口に運び、
「」
ゴクリと体内に流しこむのである。

眠がぬをかけた田方が通る

かせ^糸田^つた、オし^ニジ^の帽子^が

である。箱の猫は追いたえらぬ、

男は通り過ぎるゆく。

そうして、また何もなかつたおぼに

私は詩作に戻らなけなかつた
た^らな^かつ^たら^なか^つた^ら



9416 1110 1110

1110 1110

電線ね、汚いよわ

付くたわ下った

画廊通り子電線たちに

するめイカを干してね

さう下をみんない通る

さう作の表を表現したいの

黄色に緑の先を緑色に巻いて

オトコ干し色のじやばらのゆめ

通す。画廊の体内を通る

その女ゆめは、つみにかかると
たぶらる。

説明・この詩は、光ケーブルが
ギャラリーに入ったときの話。

ケーブルが黄色で、ギャラリー
には、すでに、光を通す管がつ
いていたのだが、その色がオレ
ンジ色で蛇腹の管であった。線
を管に通すために、ケーブルの
先端に、棒のようなものを取り
つけたのだが、固定するために
緑色のビニールテープを使っ
たというお話です。

自転車がゆかから

田がががにびるしやうなうた

田ににががらヌトローニ

エーエを飲め。咳はなかなか

はまらあににアアアア

私はカーターさんたくし
はと田ににたつめである。

病院とにっつのは

全く自分勝手である。

火曜の午後はインターン

ラシキ「若人」が待機して

いるので一年前は満員だった

た待合室もガラガラに

なリーストとにっつのは信用が

「~~病院~~とにっつのは信用が

昔の
ドクターは、
たいたいの
眼はかまはる



あの昔はかまはる
てくるの
決めこの

私のタイムアウトです

雨電話のベルが鳴る。

つ
花を届けたからね」

彼女はそうやって、いつも花を届けてくめる。

私は、画郎に明かりをうつけて、

雨にぬれた花と、

ほほえむのだった。
ほほえむのだった。

川さなその子は、またやせました。

髪を長くして、生首に髪な口も、

今日はしよんぼりとしている。

そうして、今度は半べそになり

たよがら、
私は同子が読めないので

そう、
はじめのめのである。

「ペンが回転車の鍵を

「。の。」「。の。」「。の。」

も、ペンをとち、回転車の鍵を

「回転車の鍵を」

「回転車の鍵を」

「回転車の鍵を」

「回転車の鍵を」

猫

竹相のφの猫は待つてみる。

ひたすらに、自転車が前に停まり

小ハナタノアが油の桶くびける田を
てある。箱のφから

耳の共、ほをちよとあして

ただ待つ向に眠るの
である。

である。

少く雨が降った。

猫はダニホに眠り。

カラスやスズメが

猫の餌を

えっと食べるとは

飛んでいった。

もうあぐく
ヤ目め
およこ

生まぬし猫たちが

そーにらに自木をうけて

あぐくのぞある。

か苗どもはそれれに

あぐくと伸ばし

伸ばしし
あぐくを伸ばすのぞ

あぐく

あとがき

この詩は、二〇一〇年の五月二〇日に描いた作品です。

この日に来た人々、この日、お店の前を通った人、
やつてきたフルーツ売り、最近起きたこと、
ちよとした愚痴。

そんなことを、頂いた紙に、ガクペンで綴りました。

長いこと、倉庫に入れてあったのですが、

世の絵の整理をするとき、この詩集にするのことにしました。

たいした内容でもありませんが、

読んで下さる方も多いので電子本として公開します。

書ききれない文字で読みたい方も

ございますが、タブレットで読めるかもです。

新しいエフ。ロニは

なかなかなか出来あが

らない。それはいいけどフリル

がめんどろにたっ？ キー？ いるからで

苗の耳から。しースの袖やらと

同じように、11月に進めたいで

戻る。

自由、世界に

ぶのは

金くもって

お金で買はるは田舎に

のこある。だからこそ

手に入らぬものはなからたのこ

し、だからこそ、羨ましく

もある。

あとりえおじやらの本



詩集 ガラスぺんのため息

二〇一〇年五月二十日に書かれた詩です

(CD版 七百円)

ダウンロード版フリー)

二〇一一年十二月十五日発行

絵と詩 おじやらりか

発行者 小山田 理花

発行所 あとりえおじやらりか

〒一〇〇-〇〇三〇

東京都足立区千住三-五十八

おじやら現代美術館 アンド 画廊

E-Mail:rica@ojara.net

<http://www.ojara.net>

ISBN 978-4-901941-25-9

© おじやらりか

お気づきの個所がございましたら、ご面倒様でも、
E-mailにてお知らせください。よろしくお願い致します。

おどろおどろの本



<http://ojaranet>

ISBN978-4-901941-25-9
C0892E ¥700